

波賀中だより

宍粟市立
波賀中学校
2024.9.30
9月号



自立への挑戦

校長 高井和也

今年の夏も、記録的猛暑という言葉に耳慣れるほど酷暑が続ぎ、九月が終わろうとする現在もエアコンが切れない日々が続いています。夏季休業中は、生徒たちも地域・保護者の方々に見守られ、大きなケガや交通事故などのトラブルに巻き込まれることなく、元気に二学期を迎えることができましたこと大変感謝しております。ありがとうございます。

過日の「令和六年度 第七十八回波賀中学校体育祭」では、大変多くのご家族や地域の皆様にご観覧いただきました。暑さが厳しい中での練習でしたが、「彩輝(さいこう)〜一人一人の輝く色〜」のスローガンを合言葉に、生徒たち一人一人が主役の体育祭を作り上げることができました。中学生らしい力強さや勢いを感じさせる躍動感ある演技とともに、一人一人の輝く笑顔があふれる、ほのぼのとした体育祭となりました。生徒たちが達成感・充実感をもって終えることができましたのは、皆様方の温かい拍手や励ましのお陰です。また、保護者の皆様には、練習期間中、子どもたちの体調管理や準備にも気を配ってくださったこと、重ねてお礼申し上げます。

さて、二学期が始まり一ヶ月近くが経とうとしています。始業式では、本校の今年度スローガン「自立への挑戦〜自分を拓く、未来を拓く〜」について話をしました。

「皆さんには、中学校生活の中で自分の人生をより豊かにするために必要な様々な力をつけてほしい。また、将来、自分の力を発揮しながらよりよい社会を形成する一員となってほしい。そのためにも自立した人間になれるよう様々なことに挑戦してほしい。」とどう思っているか、スローガンには込められています。では、「自立」とはどういうことでしょうか。

「自立」には3つの意味があります。まず、一つ目は、「自分一人ですべてできることを増やしていく」ことです。そのために、生活力・学力・体力・運動能力など自分の力を拓き、また読書や芸術鑑賞などで可能性を広げること積極的に挑戦していきましょう。二つ目は、「周りの力を借りながら課題を解決していく力を身につける」ことです。これから生活していく中で、自分の力だけではどうにもならないことや解決できないことにたくさん出会う

ます。そんな時には、周りの力を借り、パワーをもらい、助け合って生きていく力が必要です。そのためにも、「コミュニケーション能力を磨くことが大事です。まずは、日頃の生活のなかで挨拶、返事をしっかりとる、人の話にしっかりと耳を傾けられる、班などの話し合い活動で意見を聞いたり、自分の思いを伝えたり、考えを高めあったりできる会話を磨いていきましょう。そして、三つ目は「自分で決断し行動できる力を身につける」ことです。人生は、様々な決断の連続です。その決断の基準を「自分にとって損か得か」ではなく「善か悪か」で判断し、正しい決断のもと行動できる人になりましょう。そのためにも、学校生活の様々な場面で、意識を高く持って決断をし、行動につなげるようにしていきましょう。

というようなことを話しました。とりわけ、二つ目の「周りの力を借りながら課題を解決していく力を身につける」ことは、社会情勢が激変する中、想定外の事象に対応していくことや、協力・協働して持続可能な社会を作り出していくことが求められる今の子どもたちには不可欠なものではないかと思えます。そして、自分の思いを伝え、周りの力を借りながら助け合って生きていくことは大切です。このことを主題としたある道徳の資料を紹介します。

足が不自由な「私」が子どもだった時の回想。「私」は

学校の教室にひとり残り、父親が迎えに来てくれるのを待っていた。すると廊下を通りかかった他のクラスの子が、僕らと一緒に校庭の砂場で遊ばないかと誘ってきた。「私」は遊びたかったが、彼らは私の足が悪いことを知らないだろう。だから連れて行ってくれと頼むのははずかしくて「行こうかな…」とあいまいにつぶやいて、もじもじしていたら、彼らは行ってしまった。すると、その様子を見ていた父親に叱られた。「人さまにお願いするとき、もっとはっきり言わんとあかん！人間は誰でも人の助けを借りないと生きていけれへんのや。今の自分の気持ち素直にいうてみ！」

【ともに生きたい】(学校図書四年)

これまでは「人に迷惑をかけた他者に助けを求めたりすることは恥ずかしいこと」という考えが道徳的なことだとされてきたように思います。そうではなく、人は一人では生きられず、困ったときは遠慮なく「助けて」と言えて周りから支えてもらい、逆に「助けて」と声をかけられたときには救いの手を差し伸べることができるよう「お互い様」を土台にした人間関係を築いていくことが大事なのではないでしょうか。生徒たちにとって本校が、迷惑をかけ合いながらも、ともに生きたい、学びたい、通いたいと思える学び舎となるよう、様々な成功体験や失敗体験を繰り返しながら、「自立への挑戦」を続けていきたいと思えます。

今後、文化祭などの学校行事や、「九年生心るさとカレンダー作り」「八年生森林鉄道学習」「七年生ものづくり体験教室」など、たくさん学年行事をひかえています。生徒が地域でお世話になったり、生徒の活躍をご覧いただいたりする機会が多くある学期となります。

保護者の皆様、地域の皆様、どうぞ二学期も波賀中学校に対するご理解とご協力、また、「指導やご意見を賜りますこと」を心よりお願い申し上げます。



「彩輝(さいこう)〜一人一人の輝く色〜」

体育担当 菅原裕之

本年度、波賀中学校に転動してきて姫路との文化の違いを感じながらの体育祭練習スタートとなりました。教師主導ではなく、生徒会執行部の生徒が中心となり、生徒主導で作り上げていく体育祭は初めてで、私もどのように生徒たちと進めていくか手探りばかりでしたが、執行部の生徒が自ら「こういふふう」に練習したい。「こんな体育祭にしたい。」という気持ちを強く持って練習を進めてくれていたので、他の生徒も集中して取り組んでいる様子が見られました。

今回の練習の中で一番印象に残っているのは、ソーラン節です。今年のソーラン節は、アンコールをなくす代わりに踊りのクオリティを上げようと、夏休み中から執行部の生徒と話合い、事前に練習も行ってきました。その中で、どうすれば見えてきたか、どうすれば見栄えを良くできるかなど、一つ一つの動作にまでこだわり話合ってきました。体育祭練習が始まってからは、執行部の生徒がその思いをしっかりと全校生徒に伝え、その気持ちに他の生徒たちが応え、練習中からとても熱い気持ちのこもったソーラン節を踊ることができました。その生徒たちの気持ちに合わせ教職員も指導にも熱が入り、波賀中学校全体としてこだわって取り組めたのではないかと思います。

体育祭本番では、雨天のため順延になった影響もなく、生徒たちの気持ちはとても高く、どの種目にも額に汗を輝かせ、一生懸命取り組みました。時には笑顔満面で応援をしたり、綱引きなどでは歯を食いしばりながら全力を出そうとする姿など、たくさん素敵な表情を見ることができました。今年の体育祭のスローガンにもなっていた「彩輝〜一人一人の輝く色〜」の通り、一人一人が本当に輝いて見える体育祭となりました。

また、予行では八年生が一位でしたが、本番では九年生が流石の力を発揮し一位を取りました。これも他の学年がよきライバルとして頑張ってくれたおかげではないかと思えます。

最後に、体育祭練習開始から支えてくださった保護者

・地域の皆様、本当にありがとうございました。今年も大きなけがもなく体育祭を終えることができたのは、陰ながら支えてくださった皆様の存在があったことと思います。保護者の皆様に関してはおお井当の準備や早朝の支えていただいたことも多く、迷惑をおかけしたことも思いますが、今回の体育祭で協力した経験を通じて、これから学校の生活の中でもその絆が發揮されることを願っています。

◇ 体育祭を終えて ◇

みなさんがよく出ていただき、練習の時よりも結果がよかったです。最後まであきらめずに体育祭を終えることができた。多目的ホールでは二位でゴールできたのでうれしかったです。負けてしまったけれど、七年生としての結果は良かったと思います。

私は練習でケガをして、最後の練習には参加できませんでした。ですが、本番では、それまで練習してきたことをしっかり発揮できたので良かったです。

結果は負けてしまいましたが、担任の先生が言っていたように初めてやった時より全部上手になれたし、みんなで協力して本気で取り組めました。ケガで思うように足が動かなかったけれど、みんなと参加できてよかったです。



今年の体育祭で一番印象に残ったのは、ソーラン節です。練習の時に前の列に変更されて、最初は不安だったけれど、全力で頑張ることができました。もう一つ「団結力」で心に残っているのは、学級対抗リレーの時に、みんなが自然と全力で応援していたことで、これが体育祭で大切なことなんじゃないかなと思います。

今回の体育祭で学年の目標にしていた「動きを早くする」は、できた時とできなかった時があるのですが、これからの生活で頑張っていきたいです。



一回目の体育祭でした。去年も経験しているのでも、流暢にだいたいわかっていて緊張はしませんでした。

練習の中で八年生は「動きを早くする」を目標にしていました。この目標は、達成できた日もあったけれど、できない日の方が多かったので、来年は練習から頑張りたいと思います。

私は、ラジオ体操・綱引き・応援を一生懸命頑張りました。最終結果は二位だったけれど、クラスの仲は深まったと思います。

来年は優勝するぞー！



来年は優勝するぞー！

クラスのスローガン「有終の仁」三年間愛し続けてきた学年カラーのピンク。今年は最高に綺麗なピンクにしようと思いを決めたスローガン、絶対に勝つてやろうと思いましたが、そして体育祭当日、すごく暑い中、人がたくさん来ていて、ワクワクしました。行進では、国旗を持って入場し、手を大きく振って入場できました。開会宣言は、朝礼台に立った時はすごく緊張しました。リレーと多目的リレーは、バトンパスも上手いって、二人三脚やボール運びも息を合わせ、一位を取るのことができました。ソーランは、みんなが練習した通りにおもしろいように聞いて、自分の踊りに集中して全力で踊りました。大縄跳びは、すくすくスミスに跳べて、一回目は百回も跳べて、すくすく上達したなと思いました。綱引きは、九年生の圧巻の力を見せつけて勝つことができました。学級対抗リレーは、バトンパスも上手に行っていて、すくすく速かったです。ダンスは、少し緊張してはいたけれど、練習した通りに踊れて、盛り上げられたので良かったです。ムカデ競争は、一回もくけずにゴールできたので良かったです。結果は、全部の競技に勝つことができませんでした。すくすく嬉しかったです。この優勝は、僕たちだけで取った優勝ではありません。七、八年生とい

今年度の体育祭は、目標とする「有終の仁」を飾れたと思います。全勝し、最高の体育祭になりました。さすが九年ですが千代延学級です。予行では二位でしたが、私の宣言通りの優勝できました。最初から優勝できるとわかっていました。九年は、すくすくわかっていました。しかし、大縄跳びで負けたのは事実です。でも、盛り上げ方がすくすくかったです。ふざけ合っているようで、みんないい気持ちでいて、最後までいっしょに全力で楽しもうと見せていました。私もこの学級の生徒ですが、クラスメイトに惚れました。仲間と楽しむ、最高の思い出を作る、本気でふざけ合おう、すくすく私たちにしかできない思い出が、形では表すことができない宝になりました。表彰状・トロフィー・優勝旗は、みんなの努力・絆で勝ち取ったもので、私には、宝石以上の輝きを放っていたように見えました。私たちの千代延学級は、永遠に不滅です。次は文化祭です。文化祭も必ず優勝します。



今年度の体育祭は、目標とする「有終の仁」を飾れたと思います。全勝し、最高の体育祭になりました。さすが九年ですが千代延学級です。予行では二位でしたが、私の宣言通りの優勝できました。最初から優勝できるとわかっていました。九年は、すくすくわかっていました。しかし、大縄跳びで負けたのは事実です。でも、盛り上げ方がすくすくかったです。ふざけ合っているようで、みんないい気持ちでいて、最後までいっしょに全力で楽しもうと見せていました。私もこの学級の生徒ですが、クラスメイトに惚れました。仲間と楽しむ、最高の思い出を作る、本気でふざけ合おう、すくすく私たちにしかできない思い出が、形では表すことができない宝になりました。表彰状・トロフィー・優勝旗は、みんなの努力・絆で勝ち取ったもので、私には、宝石以上の輝きを放っていたように見えました。私たちの千代延学級は、永遠に不滅です。次は文化祭です。文化祭も必ず優勝します。



表彰の記録

- 《県吹奏楽コンクール西播地区大会》 中学校S部門 銀賞
- 《数学・理科甲子園ジュニア2024》 第五位 八年 尾前 颯志 高下 陽介 森本 ひとみ
- 《社会を明るくする運動作文コンテスト》 佳作 九年 前田 将汰

十月の予定

- 二日(水) 命の授業(九年生)
- 三日(木) スクールカウンセラー来校
- 五日(土) 市中学校相撲大会(一宮南中)
- 八日(火) しろうバンドフェスタ2024 貯金日
- 九日(水) ノー部活デー
- 十一日(金) 市駅伝大会事前健診
- 十一日(金) 市教育長杯中学校英語スピーチコンテスト(山崎東中)
- 十二日(土) スクールカウンセラー来校
- 十四日(月) 西播新人軟式野球大会(十三日) スポーツの日
- 十六日(水) アンガーマネジメント講習(七年生)
- 十七日(木) スクールカウンセラー来校
- 十七日(木) 講師招聘研究授業 ノー部活デー
- 十九日(土) 西播新人大会(二十日)
- 二十二日(火) 市中学校駅伝競走大会 ノー部活デー
- 二十三日(水) スクールカウンセラー来校
- 二十八日(月) テスト前ノー部活 (十一月一日朝練まで)
- 三十一日(木) 中間テスト(十一月一日)

《リサイクル活動収益金の報告》

八月四日(日)、リサイクル活動を実施しました。保護者の皆様や地域の皆様のご協力のおかげで、たくさん回収することができました。収益金は、子ども達の教育活動が円滑に行われるように大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

【収益金】 118,800円